

事例① 「コミュニケーション能力」を高める実践 [小学校第1学年：生活]



■ 山田小学校第1学年では、「コミュニケーション能力」を高めるために、生活の単元「むしとなかよしになろう」の授業で、次のような学習活動や評価活動の工夫を行いました。

2つの主眼

学習活動の工夫

評価活動の工夫

- 飼っている虫ともっと仲良くなるために、虫が喜ぶように考えて、えさや隠れ場、遊び場などを工夫したすみかを作る。
- [コミュニケーション能力]自分の飼っている虫が喜ぶすみか作りに必要な事柄を見つけ出すために、友達と進んで話し合ったり助け合ったりしながら活動する。
- 虫の気持ちにより添い、関心や愛着を高めたりするために、前時まで感想を書き込んだカードを紹介する場を設定する。
- 体験して感じたことや気付いたこと、知りたいことや知らせたいことについて、個→ペア→学級全体で交流する活動を設定する。
- [学習の見通し]では、単元を通して「学習の約束」として提示しているパネルを活用して、グループ学習の活動の仕方を確認する。
- [振り返り活動]では、学習プリントを工夫し、友達と協力することで具体化していった工夫点を振り返らせ、価値付けさせる。

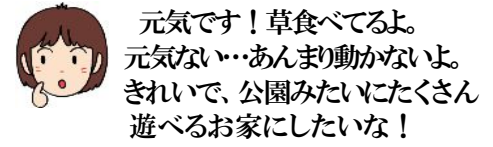
1 単元名 むしとなかよしになろう

2 本時の展開 本時(4/10時間)

学習活動・内容	教師の手立て	学びをつくり出す能力
<p>1 前時までの活動を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1)前時までに虫とかかわる中で気付いたことや困っていることを出し合い、めあてをつかむ。</p> <p>(2)活動の内容や約束を確かめる。</p>	<p>◎学習内容を想起させるために、「(虫は)元気ですか」と発問し、虫の状態を確認させる。</p> <p>◎掲示している「学習の約束」を読ませ、学習の見通しを確認する。</p>	<p>【コミュニケーション能力】</p> <p>◎前時の学習を振り返り本時の見通しをもつ。</p>
<p>[めあて]もっとむしさんとなかよくなれるように、むしさんがよるこぶうちをつくらう。</p> <p>[学習の見通し] ・知りたいことは自分からどンドン友達に聞こう。 ・困っている友達には教えたり手伝ったりしよう。</p>		
<p>2 虫のすみかを作りかえる。</p> <p>(1)虫の気持ちになって工夫したところを紹介する。</p> <p>・たくさんの草を入れるとえさが増えて虫たちはよるこぶと思ふよ。</p> <p>(2)自分なりに工夫してすみかをつくる。</p> <p>・○○さんの言うとおりに、もっとたくさん葉っぱを入れてみよう。</p> <p>・資料と図鑑でえさを調べよう。</p>	<p>○前時までの振り返りカードを紹介し、虫への関心や愛着の高まりを感じさせる。</p> <p>◎同じ虫を飼う子どもで班を作り、困ったときに相談し合ったり助け合ったりできるようにする。</p> <p>○資料や図鑑を準備しておき、活動の状態を判断しながら、自由に閲覧できる位置に配置する。</p>	<p>◎生きものともっと仲良くなりたいたいという願いを叶えるために必要な事柄を友達に進んで尋ねたり教えたりする。</p>
<p>3 できたすみかを学級全体の場で見せ合い、さらに作りかえる。</p> <p>・バッタには草を根っこごとに入れてあげた方がいいみたいだね。</p> <p>・コオロギは煮干しも食べるのか。ぼくも入れてあげよう。</p>	<p>◎個→ペア→学級全体と形態を変えてすみかを見せ合うことで、自分や友達のよさに気付かせる。また、不十分なところは互いに助言したり協力したりして作りかえさせる。</p> <p>・自分や友達の気付きのよさ ・不十分な部分の助言や協力</p>	
<p>4 学習を振り返り、感想を出し合う。</p> <p>・○○さんに、バッタのえさを教えてもらったので、おうちに入れました。えさを食べてくれたら嬉しいです。</p>	<p>◎「～ので、～」 「～だから、～」のように、すみか作りの工夫と友達とのかかわりをつないで振り返ることができるように学習プリントを工夫する。</p>	<p>◎本時学習で気付いたことを明らかにする。</p>

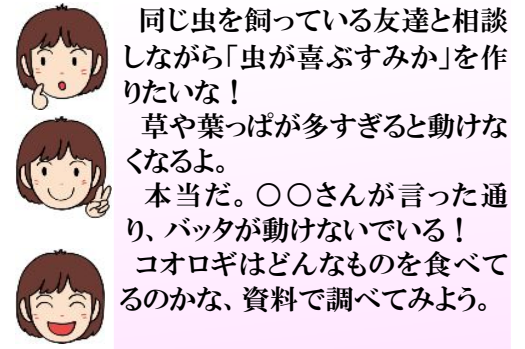
「コミュニケーション能力」を高める学習活動・評価活動の工夫

**1 発問に答えながら、課題意識を高める。**  
 (1) 「(虫は)元気ですか?」で、学習内容の確認  
 (2) 「どんなすみかがいいの?」による学習課題の確認

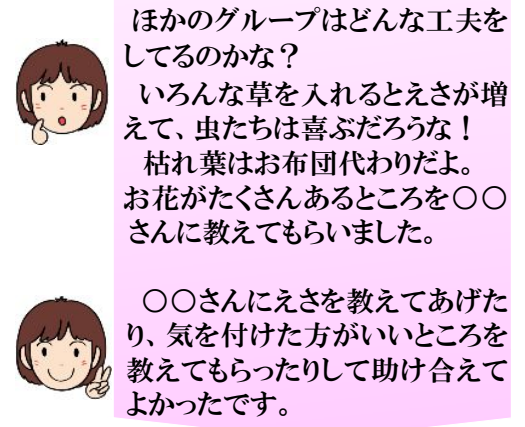


**「学習の見通し」**  
 ① 友達と相談しながらすみかや遊び場などを工夫する  
 ② 資料などを参考にして調べる

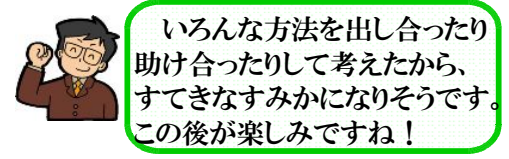
**2 「虫が喜ぶすみか」になるように、自分なりに考えた工夫ですみかを作る。**  
 (1) 学習プリントを見せ合いながらの意見交換  
 (2) 困っている友達へのアドバイスや手伝い  
 (3) 図資料や図鑑などの活用



**3 個人やペアで考えた工夫を、さらに学級全体の場で共有化するために交流活動を行う。**  
 (1) 虫の気持ちを考えた言動の紹介  
 (2) すみかを見せ合い、気付いた点についての意見交流



**4 「めあて」と「学習の見通し」を振り返り、価値付ける。**  
 (1) 「めあて」と「学習の見通し」の自己評価  
 (2) 2名の児童の発表と教師の価値付け



**この実践のよさ**

- ◆ この実践のよさは、子どもたちが強い関心をもっている「虫の気持ち」に寄り添って、自分なりに工夫したことを意見交流する活動を、個→ペア→学級の3段階に設定することで、徐々にコミュニケーション能力を高められるようにしているところです。また、教師は困っている友達へのアドバイスを考えさせたり、資料を意図的に配置したりして、コミュニケーション活動の活発化に努めています。
- ◆ このような学習活動の工夫は、課題解決能力や情報収集・探索能力を高めることにも効果があります。
- ◆ 「学習の見通し」の場面では、友達と相談したり、助け合ったりしながら学習を進めることを「学習の約束」として毎時間確認しました。そして、「学習の振り返り」では、友達と協力することで具体化していった工夫点を取り上げて、コミュニケーション能力の高まりを価値付けました。